



受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、『スパークス・厳選投資ファンド（確定拠出年金向け）』は、このたび、第1期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてスパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド受益証券を通じて、高い技術力やブランド力があり、今後グローバルでの活躍が期待でき、成長していく日本企業（新・国際優良企業）の株式を中心に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行うことを基本としました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

< お問い合わせ先 >

スパークス・アセット・マネジメント株式会社
東京都港区港南一丁目2番70号 品川シーズンテラス
リテールBDマーケティング部
電話：03-6711-9200(代表)
受付時間：営業日の9時～17時
ホームページアドレス：<https://www.sparx.co.jp/>

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)を電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順でご覧いただけます。なお、書面をご要望の場合は、販売会社までお問い合わせください。

< 閲覧方法 >

上記URLにアクセス⇒「スパークスの投資信託」より「投資信託一覧」の当ファンドを選択⇒「運用報告書(全体版)」を選択

交付運用報告書

スパークス・厳選投資ファンド (確定拠出年金向け)

特化型

追加型投信／国内／株式

第1期(決算日 2021年5月25日)
作成対象期間(2020年5月28日～2021年5月25日)

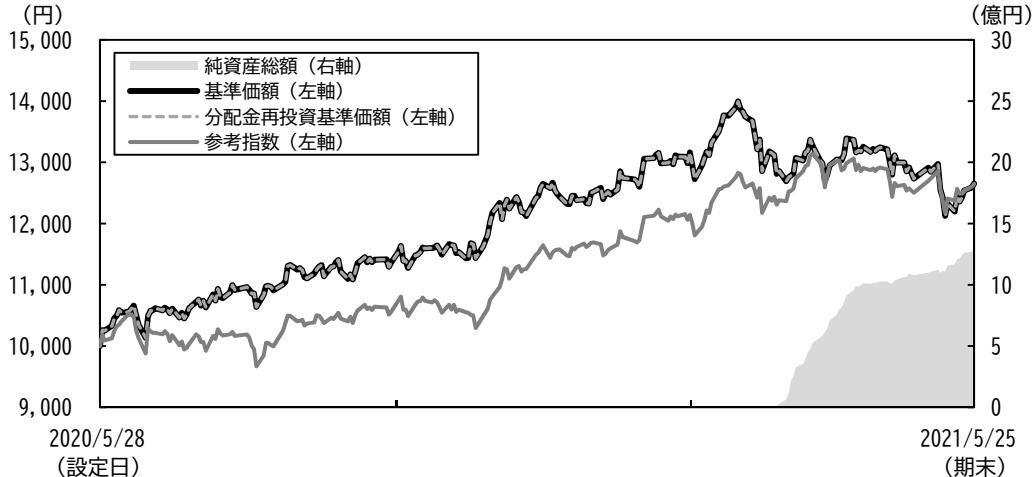
| 第1期末 (2021年5月25日) | |
|--------------------------------|----------|
| 基準価額 | 12,653円 |
| 純資産総額 | 1,284百万円 |
| 第1期 (2020年5月28日～2021年5月25日) | |
| 騰落率 | 26.5% |
| 分配金合計 | 0円 |

(注) 騰落率は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算しています。

運用経過

■ 基準価額等の推移（2020年5月28日～2021年5月25日）

基準価額は設定時に比べ26.5%（分配金再投資ベース）の上昇となりました。



設定日：10,000円

第1期末：12,653円（既払分配金0円）

騰落率：26.5%（分配金再投資ベース）

- ※ 設定日の基準価額は設定当初の投資元本です。
- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ 当ファンドにベンチマークはありません。参考指数は「TOPIX(配当込み)」です。
- ※ 参考指数は当ファンドの設定時の基準価額に合わせて指数化しております。

■ 基準価額の主な変動要因

当ファンドは、スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）を通じて、日本の株式に投資しているため、個別銘柄の株価上昇が基準価額の上昇要因となりました。一方、個別銘柄の株価下落が基準価額の下落要因となり、当期の当ファンドの騰落率は26.5%の上昇となりました。

■ 1万口当たりの費用明細

| 項 目 | 当期 2020年5月28日～2021年5月25日 | | 項 目 の 概 要 |
|---|-----------------------------------|---|--|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信託報酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社) | 127円 (91) (32) (4) | 1.072% (0.768) (0.270) (0.034) | (a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ・ ファンドの運用、開示書類等の作成、基準価額の算出等の対価 ・ 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 ・ ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等の対価 |
| (b) 売買委託手数料 (株 式) | 3 (3) | 0.025 (0.025) | (b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・ 有価証券等を売買する際に発生する費用 |
| (c) そ の 他 費 用 (監 査 費 用) (印 刷 費 用) | 14 (10) (4) | 0.118 (0.084) (0.034) | (c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・ 監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 ・ 法定書類等の作成、印刷費用 |
| 合 計 | 144 | 1.215 | |
| 期中の平均基準価額は11,853円です。 | | | |

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

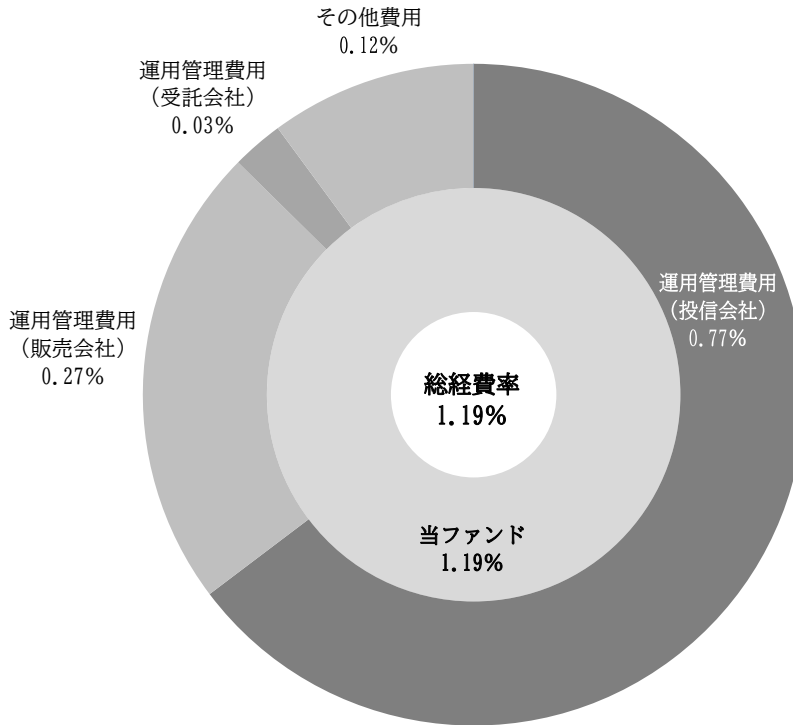
(注2) 各金額は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注3) 各比率は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）

○ 総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.19%です。



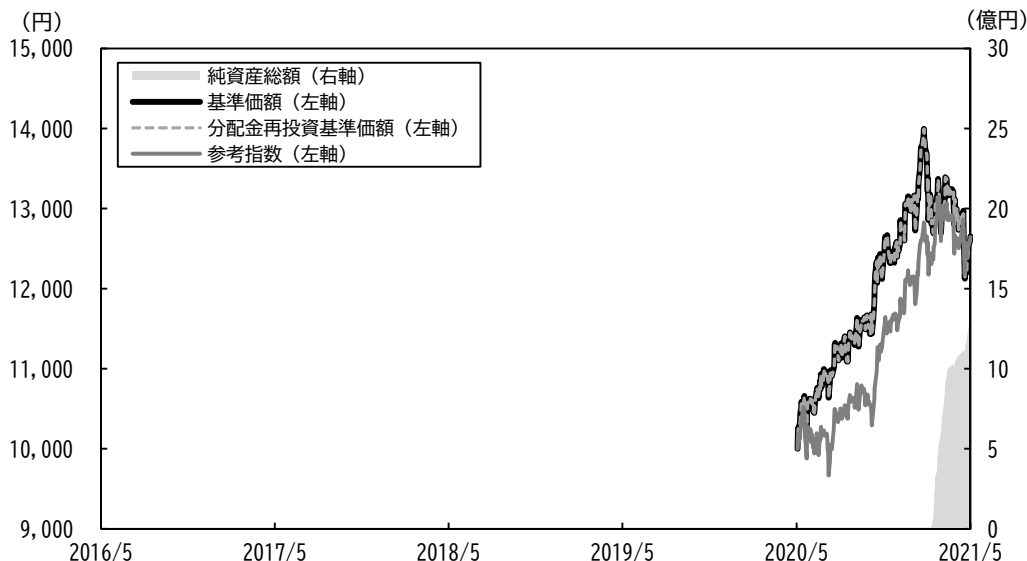
(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

■ 最近5年間の基準価額等の推移（2016年5月25日～2021年5月25日）



- ※ 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- ※ 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- ※ 参考指数は当ファンドの設定時の基準価額に合わせて指数化しております。

| | 2020年5月28日 設定日 | 2021年5月25日 決算日 |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| 基準価額 (円) | 10,000 | 12,653 |
| 期間分配金合計(税込み) (円) | — | 0 |
| 分配金再投資基準価額騰落率 (%) | — | 26.5 |
| 参考指数騰落率 (%) | — | 26.4 |
| 純資産総額 (百万円) | 1 | 1,284 |

- ※ 設定日の基準価額は設定当初の投資元本です。
- ※ 参考指数は「TOPIX(配当込み)」です。
参考指数の詳細は、最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

■ 投資環境

当期の日本株式市場は、2020年初からの新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延による不透明な経済環境からのスタートとなりました。期前半は、パンデミックによって大打撃を受けた経済を立て直すべく政府によってとられた前例のない積極的な財政支援や、日銀による低金利維持と潤沢な流動性供給が、株式相場の大幅な回復の原動力となりました。また秋口には相次ぐ新型コロナワクチン承認のニュースをきっかけに、上昇トレンドに拍車がかかりました。一方、期後半は景気の本格回復への期待から強含みの展開が続きましたが、世界的なインフレ懸念が台頭してきたことで、やや高値から調整した水準で期末を迎えました。

■ ポートフォリオ

< スパークス・厳選投資ファンド（確定拠出年金向け） >

当ファンドは、主としてマザーファンドを通じて、日本の株式に投資し、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行いました。当期のマザーファンドの組入比率は、高位を維持しました。

< スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド >

当マザーファンドにつきましては、以下の投資基準に出来るだけ合致する企業を、少なくとも3-5年程度の時間軸で評価し、長期的な観点で投資を行いました。

- ・ビジネスモデルがシンプルで理解しやすい
- ・本質的に安全なビジネス
- ・有利子負債が少ない強固なバランスシート
- ・高い参入障壁に守られたビジネス
- ・持続可能な高ROEとそれに見合う利益成長
- ・景気動向に左右されず潤沢なキャッシュフローを生み出している
- ・資本コストを理解し、最適資本配分ができる卓越した経営陣

（主なプラス要因）

当期のパフォーマンスに対してプラスに寄与した主な銘柄は、ソニーグループやソフトバンクグループなどです。

ソニーグループは、短期業績が好調であることに加え、中期見通しも改善してきたことが株価上昇要因となりました。各セグメント状況は以下のとおりです。

- ・ゲーミング事業が巣籠り消費で足元好調であるうえ、PlayStation5の投入によって向こう数年間の成長期待も高まっています。
- ・音楽事業もストリーミングの普及で、業界全体が好調であり、同社はユニバーサルミュージックやワーナーミュージックと並ぶ世界3強であり寡占化(かせんか：市場の売上が数社で占められていること)しているのが強みと考えます。
- ・映画事業は、前年に鬼滅の刃が好調であったことに加え、新型コロナウイルスのパンデミックが収束するに連れて、新規映画の製作が再開すると考えられます。
- ・半導体事業の主力である画像センサーは、昨年米国の制裁の一環としてHuaweiへの供給がストップしましたが、現在は再開しています。同センサーは世界トップシェアであり、今後車載向け等、拡販が進むと思われます。
- ・引き続き、経営陣は、音楽著作権買収、ビデオゲーム制作会社への出資、動画プラットフォーム会社の買収などエンターテインメントビジネスの強化を進めています。
- ・ハード(AV機器の製造ビジネス)とソフト(コンテンツ制作)の融合も、自社ハード製品のVR機能などを活用したコンテンツ作りの提案など、単なるコンテンツメーカーにはできない事業展開が可能となっています。

ソフトバンクグループは、2020年3月に発表された大規模な保有資産売却と自社株買い計画の進捗状況が好感され株価が上昇しました。当ファンドは同社をテクノロジーに特化した投資会社として評価しています。保有株式の価値に比べた同社株価の水準訂正はだいぶ進みましたが、今後の既存投資先の持続的な成長力や、新規投資案件の発掘見通しなどを前提とすれば未だ割安であるとの見解です。

また、オーナー経営者である孫正義氏についても、日本を代表する起業家として、投資事業に限らず長期的な株主価値創造に貢献すると考えています。さらに当年度上期は投資先の株価下落で苦戦したビジョンファンド事業も、下期以降は株式市況の活況も手伝い、業績回復に大きく寄与しました。

（主なマイナス要因）

当期のパフォーマンスに対してマイナスに影響した主な銘柄は、参天製薬やロート製薬などです。

眼科向け処方箋薬を日本、アジア、欧州で主に展開する参天製薬は、中国において中央政府が発表した医薬品・医療機器の集中購買プログラム導入のニュースをきっかけに下落しました。同プログラムは同国医療費の削減を目的としたものであり、今回供給元として選ばれなかった同社にとっては売上減少の悪影響が懸念されます。また、新規進出先である米国において申請中であった緑内障向け治療器具の承認が遅れる見込みとなったこともマイナスとなりました。しかし、視力疾患をもった患者数は世界人口の高齢化にともない増加傾向にあり、長期的な業界展望は明るいと考えられます。また、眼科薬ビジネスはプレイヤー数が限られていることから、競争環境は穏やかであること、そして同社は日本国内の収益基盤が盤石であり、財務内容も強固であるため、継続保有とする方針です。

ロート製薬を含む日本の日用品メーカーは新型コロナウイルス感染症の世界的拡大による国内経済悪化懸念、および中国などからの訪日客の大幅減少による化粧品売上の低迷により株価下落を余儀なくされました。しかし、コロナウイルスの収束に伴い、売上は回復基調に入るものと思われます。さらに、同社経営陣が近年新規事業として注力している間葉系幹細胞を活用した再生医療事業も中期的な業績けん引役となることが期待されます。

〔 組入上位10銘柄 〕

当期末(2021年5月25日)

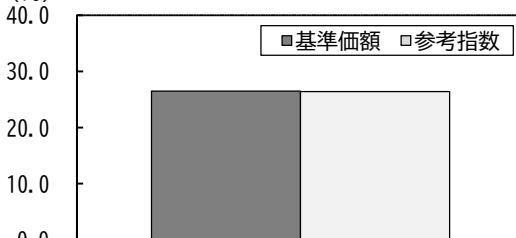
| | 銘柄名 | 業種 | 比率 (%) |
|----|---------------|--------|-----------|
| 1 | ソニーグループ | 電気機器 | 9.6 |
| 2 | 日本電産 | 電気機器 | 8.6 |
| 3 | リクルートホールディングス | サービス業 | 8.3 |
| 4 | ソフトバンクグループ | 情報・通信業 | 7.6 |
| 5 | シマノ | 輸送用機器 | 6.0 |
| 6 | キーエンス | 電気機器 | 5.9 |
| 7 | テルモ | 精密機器 | 5.9 |
| 8 | ダイキン工業 | 機械 | 5.4 |
| 9 | ミスミグループ本社 | 卸売業 | 5.1 |
| 10 | メルカリ | 情報・通信業 | 5.1 |

※ 比率は対純資産(マザーファンドベース)

■ ベンチマークとの差異

- ※ 当ファンドはベンチマークを設けておりません。
右記のグラフは当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率との対比です。
- ※ 参考指数は、「TOPIX(配当込み)」です。

当ファンドの基準価額と参考指数の対比(期別騰落率)
(%)



第1期
(2020/5/28 ~ 2021/5/25)

(注) 基準価額の騰落率は、分配金込みです。

■ 分配金

当期の分配金につきましては、基準価額水準および市場動向等を勘案して見送らせていただきました。
留保益につきましては、信託財産中に留保し、当ファンドの基本方針及び今後の運用方針に基づき運用させていただきます。

〔 分配原資の内訳 〕

(単位：円 1万口当たり・税込み)

| 項目 | 第1期 (2020年5月28日～ 2021年5月25日) |
|--------------------|------------------------------------|
| 当期分配金 (対基準価額比率) | — (— %) |
| 当期の収益 | — |
| 当期の収益以外 | — |
| 翌期繰越分配対象額 | 2,652 |

(注1) 円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金(税込み)に合致しない場合があります。

(注2) 該当欄に数値がない場合は「—」、小数点以下のみの数値の場合は「0」にて表示します。

(注3) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

< スパークス・厳選投資ファンド（確定拠出年金向け） >

マザーファンドの組入比率は、引き続き原則として高位を維持しながら、信託財産の中長期的な成長を目指して運用を行います。

< スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド >

現在のポートフォリオは当ファンドの銘柄選択基準に合致した成長性があり、質の高い魅力的な企業群で構成されていると考えています。また大半の保有銘柄については、その潜在成長力および長期見通しが株価に十分反映されておらず、引き続き中長期的に市場平均を上回る株価推移が期待できることから、継続保有を続けていく方針です。

ただし、以下の事由が発生した場合には、銘柄入れ替えを積極的に行う方針です。

- －既存保有銘柄が実態価値を大幅に上回って値上がりした場合
- －既存保有銘柄のビジネスが構造的な価値毀損に見舞われた場合、もしくは当ファンドが当初見積もった企業の実態価値の評価が誤っていると判断された場合
- －リスク・リターンの観点からより魅力的な新規銘柄を発掘した場合

今後も魅力的なビジネスを長期保有する、という当ファンドの基本スタンスに変更はありません。外部環境の変化に囚われず、引き続き独自の力で成長を遂げることができる可能性の高い企業を中心にポートフォリオを運用してまいります。

今後とも引き続きご愛顧を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

お知らせ

該当事項はありません。

当ファンドの概要

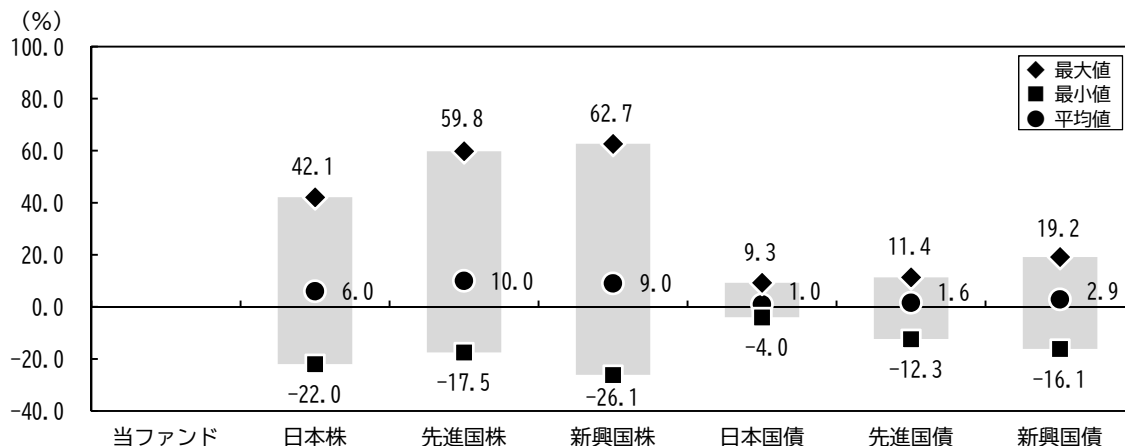
| | | |
|------------|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／国内／株式 | |
| 信託期間 | 無期限（2020年5月28日設定） | |
| 運用方針 | この投資信託は、信託財産の中長期的な成長を目指して積極的な運用を行うことを基本とします。 | |
| 主要投資対象 | 当ファンド | スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）受益証券を主要投資対象とします。 |
| | スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド | 金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。 |
| 当ファンドの運用方法 | <p>① マザーファンド受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所に上場している株式の中から、ベンチマークや業種にとらわれず、魅力的と判断した銘柄に集中的に投資を行うことを基本とします。</p> <p>② マザーファンド受益証券の組入比率は、原則として高位に保ちます。</p> | |
| 分配方針 | <p>毎決算時に、原則として以下の方針に基づき、分配を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分配対象額の範囲は、経費控除後の利子・配当収入および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・分配金額は、委託会社が基準価額水準、市場動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等は、分配を行わないこともあります。 ・留保益の運用については、特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。 | |

※ 当ファンドは、一般社団法人投資信託協会「投資信託等の運用に関する規則 信用リスク集中回避のための投資制限の例外」を適用して特化型運用を行います。そのため、一般のファンドにおいては、一の者に係るエクスポージャーの投資信託財産の純資産総額に対する比率として10%を上限として運用を行うところを、当ファンドにおいては35%を上限として運用を行います。

※ 当ファンドは、ベンチマーク等を意識せず、弊社独自の調査活動を通じて厳選した少数の投資銘柄群に絞り込んで集中投資することとしているため、個別銘柄への投資において、当ファンドの純資産総額に対して実質的に10%を超えて集中投資することが想定されています。そのため、集中投資を行った投資銘柄において経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

（参考情報）

■ ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較（2016年5月末～2021年4月末）



（注1）2016年5月～2021年4月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2020年5月28日から運用を開始し、2021年4月末現在で設定後1年を経過していないため、該当事項はありません。

（注2）全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

（注3）当ファンドは税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率が記載されており、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

（注4）上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、当ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

※ 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・NOMURA-BPI国債

先進国債・・・FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債・・・FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

* 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

* 詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

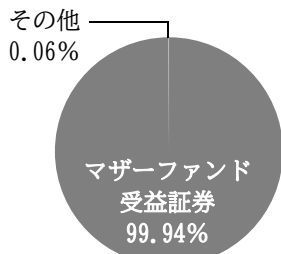
当ファンドのデータ

■ 組入資産の内容（2021年5月25日現在）

< 組入ファンド >

| ファンド名 | 第1期末 |
|-------------------------------|--------|
| スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド | 99.94% |
| 組入銘柄数 | 1ファンド |

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



※ 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

■ 純資産等

| 項 目 | 第1期末 2021年5月25日 |
|------------|--------------------|
| 純資産総額 | 1,284,430,320 円 |
| 受益権総口数 | 1,015,156,708 口 |
| 1万口当たり基準価額 | 12,653 円 |

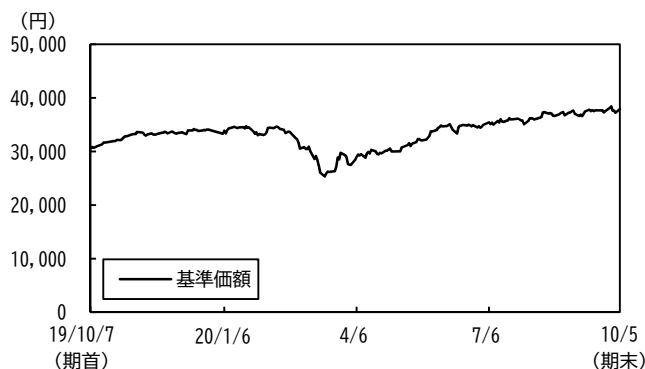
(注) 当期中における追加設定元本額は1,081,329,419円、同解約元本額は66,172,711円です。

■ 組入上位ファンド（銘柄）の内容

【スパークス・オールキャップ・ベスト・ピック・マザーファンド】（2020年10月5日現在）

< 基準価額の推移 >

(2019年10月8日～2020年10月5日)



< 組入上位10銘柄 >

| | 銘柄名 | 業種 | 比率(%) |
|-------|---------------|--------|-------|
| 1 | ソニー | 電気機器 | 8.1 |
| 2 | 日本電産 | 電気機器 | 8.1 |
| 3 | ソフトバンクグループ | 情報・通信業 | 7.0 |
| 4 | シマノ | 輸送用機器 | 6.9 |
| 5 | リクルートホールディングス | サービス業 | 6.7 |
| 6 | キーエンス | 電気機器 | 6.4 |
| 7 | ダイキン工業 | 機械 | 6.1 |
| 8 | テルモ | 精密機器 | 5.7 |
| 9 | ロート製薬 | 医薬品 | 5.5 |
| 10 | ユニ・チャーム | 化学 | 4.9 |
| 組入銘柄数 | | 20銘柄 | |

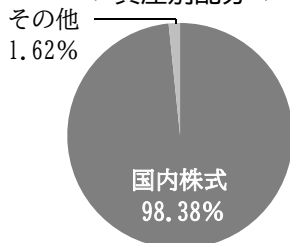
※ 組入全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

< 1万口当たりの費用明細 >

| 項目 | 当期 2019年10月8日～2020年10月5日 | |
|---------------------|-----------------------------|--------------------|
| | 金額 | 比率 |
| (a) 売買委託手数料 (株式) | 5円 (5) | 0.015% (0.015) |
| (b) その他費用 (その他) | 0 (0) | 0.000 (0.000) |
| 合計 | 5 | 0.015 |

期中の平均基準価額は33,480円です。

< 資産別配分 >



< 国別配分 >



< 通貨別配分 >



(注1) 1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のもので、2ページ(1万口当たりの費用明細)の項目の概要および注記をご参照ください。基準価額の推移、組入上位銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2020年10月5日現在のものです。

(注2) 各々の表、グラフにある比率は、純資産総額に対する評価額の割合で、それぞれの項目を四捨五入しています。

(注3) 国別配分は、発行国を表示しています。

指数に関して

< 代表的な資産クラスにおける各資産クラスの指数 >

日本株：東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

東証株価指数(TOPIX)とは、東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時(1968年1月4日終値)の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。TOPIXは、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

先進国株：MSCIコクサイ・インデックス(配当込み、円ベース)

MSCIコクサイ・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCIコクサイ・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

新興国株：MSCIエマージング・マーケット・インデックス(配当込み、円換算ベース)

MSCIエマージング・マーケット・インデックスは、MSCI Inc. が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCIエマージング・マーケット・インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

日本国債：NOMURA-BPI国債

NOMURA-BPI国債とは、野村證券株式会社が公表している指数で、NOMURA-BPI国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社およびその許諾者に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関し、一切責任ありません。

先進国債：FTSE世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

FTSE世界国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

新興国債：FTSE新興国市場国債インデックス(円ベース)

FTSE新興国市場国債インデックスは、FTSE Fixed Income LLCにより運営されている債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

※ 上記指数はファクトセットより取得しています。